

# 1学年だより「灯」

特別号  
6月21日

## 授業の準備＋受験勉強をしよう！

学校生活も落ち着いてきた今、自分の将来のために受験勉強を始めましょう。しかし、受験勉強とは何から始めれば良いのかわからない人が多いのではないのでしょうか。本日の学年集会では、各教科の先生方から受験勉強の仕方についてお話をしてもらいます。しっかり話を聞いて、家庭学習を充実させてください。

### 授業の準備をして、学校での勉強を充実させよう！

まずは、学校での授業を大切にしましょう。1時間1時間の授業に集中すること、気持ちを緩めることを意識して実践することで、気持ちの切り替えを伴った効率的な時間の使い方ができるようになります。そして、自宅では必ず短時間でもいいので勉強の時間を確保しましょう。できれば決まった時間帯を勉強の時間として、毎日家庭学習に取り組みましょう。家庭学習では、まず授業の予習復習を行いましょう。予習が大変であれば、復習(振り返り)は必ず行いましょう。家庭学習が自分の日常の中で自然と行えれば、少しずつ勉強時間を延ばすことは苦痛でなくなります。

### 受験勉強って何だろう？

ここまで、授業の準備について話してきましたが、ここからは本題の受験勉強について話します。受験勉強と聞くと、難しい問題に取り組むイメージがあると思います。しかし、1年生の時に取り組んで欲しい受験勉強は「基礎固め」です。特に、授業で学んだ内容を定着させることが大切です。

みなさんは中間考査までの範囲の内容を、本当に理解し定着出来ているのでしょうか？学校の授業は、定期考査のために行っているわけではありません。受験勉強の第一歩は、学習した内容を定着させることから始まります。土日や夏休みなど、多くの時間が確保できるときに、今まで学習した内容の復習をしてみましょう。本格的な受験勉強に取り組み始めたときに、今積み重ねた基礎が、必ずみなさんを助けてくれます。

そして受験勉強を行う上で、必ず取り組んで欲しい内容が各教科にあります。決して難しいことばかりではありません。そして大切なことは、「まずはこれということを徹底して取り組む」ことです。あれもこれも取り組むのではなく、1つのことに集中して内容を定着させましょう。日々取り組める内容が多いので、普段の家庭学習や学校の空き時間を利用して、受験勉強に取り組んでください。

### 頑張る千葉女子校生のために…

小テストや定期テスト、外部模試で点数が思わしくなかったとしても、なにより大事なことはあきらめないこと、自分ではできないなどと決めつけないことです。高校の勉強の仕方がまだ身についていなかったり、自分に向いた勉強方法がまだわからないだけです。高校生は気持ち一つで大きく変わります。いつも前向きにあきらめない気持ちが最後に力になります。先生たちは、頑張る千葉女子校生を応援します。

# 国語科より

大学進学を目指すなら、具体的に「共通テスト」得点率70%を目標にしよう。「共通テスト」は国公立大学の一次試験であり、私立大学も「共通テスト」を利用した入試をほとんど実施しています。その「共通テスト」得点率70%が、国公立大学のとっかかりであり、私立大学でも真ん中のレベルの大学のひっかかりになります。国立しろ私立にしる、大学受験のための学力の目標として「共通テスト」70%を意識してください。

大学入試のための国語の学習についてです。まず「現代文」に関しては語彙力が全てです。たくさん言葉を身につけてください。言葉を覚えるというのは単語を単独で覚えるということではありません。言葉は必ず前後の言葉の関係で使い方が決まります。つまり文脈を背景にその言葉は使われるということで、言い換えれば言葉一つ一つにロジック(論理)がつながっているということです。そうした論理が集まって文章が構成されていきます。ですから言葉を知らなければ、論理を追えない、論理的な文章表現が理解できないということになります。ならば、どうやって語彙力をつけるか。読書、なんていう悠長なことは言いません。毎日毎日、毎時間毎時間の、全ての授業、全ての教科科目の中の言葉を覚えてください。そこでの言葉を、よく見て、よく聞いて、よく書いてください。すべての授業は理屈でできています。その理屈のもとで言葉を覚えることがなによりです。それから、「現代文」の出題のほとんどが評論です。評論が取り上げる題材は多様です。家庭科、保健体育、情報で学ぶ領域があったり、芸術論があったり、当然社会科学、自然科学の分野に関わったり、今あなた方が学校で勉強している授業内容がそのまま重なっていきます。ですから授業を大事にしてください。私は3年生の「現代文」の授業で、評論の論理展開は数学の証明と同じととえます。数学も当然大事にしてください。

続いて古典分野の「古文」と「漢文」です。古典に関してはとにかくそれぞれ1冊の本を徹底的に繰り返してください。進学校の高校生も、学校から配付された古文の単語帳と漢文の句法のテキストをとにかく繰り返します。他にあまり使いません。それで東大も京都大も一橋大も大丈夫です。色んなものに手を出してしまうと逆効果です。1冊を徹底的に繰り返す。これが鉄則です。

本校では古文の単語帳を2年生から配付します。ですから、1年生のうちには授業で登場した単語を暗記してください。普通にそのまま入試問題として出題されます。

「漢文」ですが、先に「共通テスト」の話をしました。が、「共通テスト」の国語は、現代文の評論50点、現代文の小説50点、古文50点、漢文50点の計200点で構成されています。特徴は漢文が他の国語の入試問題よりも配点が高いことです。そして、漢文の特徴は他の現代文や古文に比べて、勉強すれば即点数に結びつきやすいということです。ですから、「共通テスト」の中で漢文は得点源として重視してください。なぜ得点しやすいか？覚えることが少ないからです。基本さえ暗記できていれば、さほど覚えていなくても読解できるようになります。句法のテキストも1冊まるごと覚える必要はなく、基本的なものだけで十分です。1年、2年の授業で扱うものがこの基本に当たります。ですから、古文同様、授業を本当に大事にしてください。

「共通テスト」国語の70%は古典分野、古文・漢文がベースになります。古文単語の徹底、漢文の基本の徹底できれば、80%に届きます。それを国語の目標にしましょう。

最後に繰り返します。語彙力Upのために全ての授業で言葉に集中しよう。古文、漢文は授業で扱っているものが基本中基本、徹底的に覚えよう。入試問題に直結しています。今はこれだけを意識して取り組みましょう。

# 数学科より

数学における受験勉強はシンプルです。1冊の問題集を完璧にしましょう。複数の問題集に手を出す必要はありません。1冊の問題集を完璧にすることで、その問題集は入試問題に取り組んだ時の「辞書替わり」になります。数学の難しい問題は、基礎の問題が複雑に絡み合って構成されています。そのため、一つ一つ丁寧に読み解いていくと、意外と知っている問題の派生であることに気づきます。1冊の問題集を完璧にすれば、難しい問題に出会ったとき、必ず似た問題がその問題集に入っていることがわかります。自分が完璧にした問題集で、その問題を解くヒントを調べてみてください。

完璧にする問題集は、「解説を読んで、自分で理解できる本」を選んでください。すべてのわからない問題を先生に聞く時間はないと思います。そのため、わからない問題に出会ったとき、その解説を読んで理解できるような、丁寧な解説がある問題集を選んでください。その問題集は、学校で配られた4プロセスでも、塾の問題集でも構いません。他にも、チャート式など有名な問題集がありますが、人それぞれ問題集への相性があります。自分で問題集を手に取り、解説がわかりやすいと感じた問題集を選んだら、その1冊を何度も何度も解いて完璧にしてください。自分で決めた問題集を信じて、徹底して取り組みましょう。

問題集を完璧にする際に、自分が理解している問題とそうでない問題をしっかり分けましょう。始めはすべての問題に取り組み、最初から解けてきちんと理解できている問題には何も印をつけず、解けたけれども不安が残る問題には△、解けなかった問題には○をつけましょう。問題集の2週目は△と○がついた問題に取り組み、3週目は○の問題のみ取り組むなど、問題ごとに区別しながら取り組むことで、時間の短縮をすることが出来ます。すべての問題を何度も何度も取り組む時間はないと思います。出来る限り効率よく学習に取り組み、問題集を完璧にする工夫をしましょう。

数学が苦手だと感じる人は多いと思います。なんで数学ができないのだろうと感じる人もいるかもしれません。実は数学は、勉強にとっても時間がかかる科目です。覚えることが多くなさそうな数学ですが、取り組まなければならない問題は非常に多く、公式を覚えるだけでは数学を理解することはできません。しかし、数学は時間をかければ必ず全員がマスターすることが出来る科目でもあります。あきらめずに数学に向き合ってください。何度も何度も問題にチャレンジしてください。必ず光が見えてきます。全ての問題パターンを理解して、数学を解く楽しさを味わってください。数学を好きになってくれる人が、1人でも多くなることを願っています。

## 英語科より

人間の集中力はどのくらい持続するのでしょうか。少し調べてみると、様々な調査や研究がこのことに対して行われていることがわかります。15分、45分、中には8秒という研究結果もあります(ちなみに、金魚の集中力持続時間は9秒だそうです)。次のような記事がありました。英単語を学習した中学生のテスト結果について、「15分×3回グループ」と「60分学習グループ」では「15分×3回グループ」のほうが総合時間は短いにもかかわらず、「60分学習グループ」よりもスコアが良かったというものです。

英語の運用能力のうち、昨今は会話が重視されています。一方で、ニュースなどの比較的明瞭に発音されている英語が聞き取れないのは、語彙力や文法力が十分ではないと指摘している記事が新聞に掲載されていました。その中で、文法を体系的に習得し英文を精読することの大切さを強調していました。

1年生のうちに基礎を固めましょう。皆さんの手元には「英単語ターゲット1900」、「Vision Quest Workbook」、「Vision Quest 総合英語」という素晴らしい本があります。是非活用してください。しかし、「覚えよう!」という目標を立てて、その先に「忘れてしまっている自分がいた」という経験をした人も少なくないのではないかと思います。忘れることは人間の仕事の1つだと思います。「何回もお目にかかるから、自然と体の一部になる」、そんな勉強方法を模索してはいかがでしょうか。

無味乾燥な単語や英文法ばかりでは、誰でも飽きてしまいます。インターネットを利用すると、興味がわいてきそうな英文ニュースを見つけたり、好きなアーティストの英語の歌詞を見つけて一緒に歌ったりできますね。またネイティブ特有の英語の音の連結や脱落について解説しているサイトもあります。

最後に、最も勧めたいことは「語源」をかじってみることです。インターネット上にも多くのサイトがありますが、手元に1冊置いておくのが便利です。語彙力が飛躍的に広がります。

## 模試を活用しよう!

今週の金曜日に、みなさんは進研模試という入試問題の模擬試験に挑戦します。模試はみなさんの力試しだと考えてください。点数によって一喜一憂するのではなく、自分に不足している分野を理解するためのツールと考えましょう。そして、模試は取り組んで終わりではなく、復習を行うことで本当の価値が発揮されます。模試の復習についてはまた別の機会に話したいと思います。まずは模試という強敵に対して、目標をもって立ち向かってください。先生たちも、みなさんの健闘を楽しみにしています。